高田ロータリー



クラブ会報

2015~2016年度

Rotary Club of TAKADA Report

国際ロータリー第2560地区 ガバナーテーマ

「夢(gift)を明日へ つなげよう」

高田ロータリー今年の スローガン

「ロータリーは親睦と 奉什の融合!



2015~2016年度

国際ロータリー会長 K.R.ラビンドラン 2560地区ガバナー 山本 和則 高田ロータリー会長 水上 喜芳 幹事 大島 誠

事務局: 新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号 TEL (025)526-3288 FAX (025)526-3534 メールアドレス: takadarc@joetsu.ne.jp 例会場: デュオ・セレッソ TEL (025)526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員 田中 正人 小熊 貞良 栗田 修行 笠谷 吉春 小林 豊茂 霜村 浩

第20回例会 ■11月20日 金

No.20

佘灵像罗●水上 喜芳



皆さんこんにちは。

今日は、毎月恒例のミリオンダ ラーです。

ロータリークラブの大半が例会の

食事に、このミリオンダラーズミール"百万ドル の食事"を実施しています。

ご承知の通り、それによって得られた節約額を 積立て、これを社会奉仕、国際奉仕などの資金に 繰り入れるものです。

1962年当時ロータリアン一人当り食事を2ドル節約することで当時の50万人のロータリアン全部では100万ドルになるということから、この名称ができたそうです。

実は、食事を節約して寄付をすると言う事でそれ以前からこの様な話がありました。

私よりご年配の方はよくご存じかと思いますが 日本が終戦後の食糧難のとき、アメリカを中心と した海外から救援物資をもらいました、その中で 特に有名だったのは『ララ物資』と呼ばれる少量 を中心とした救援物資でした。

その総額は当時のお金で400億円今のお金にすると約10倍の4,000億円を超える食糧援助を受けそれにより随分助かったとの事です。

その送り主にアメリカの日系人が多かったのですがアメリカのカトリック系の多くの中高校生が1週間に1度、自分の昼食を我慢して、その食事代を寄付にあてたと言われています。

そして『ララ物資』の中の脱脂粉乳が日本の学校給食の基になり、その脱脂粉乳は昭和39年、私が中学校のころまで続きました。

本日の卓話はNPO法人ハートリンクワーキングプロジェクト副理事長の林 三枝さんよりお話を頂きます。

出席報告

出席率 92.16%

ビジター

横山孝雄君(新井 RC)

メイクアップ

三井慶昭君·橋詰敏一君 (11/21 出高田 RAC 早朝清掃)

大島 誠君·三井慶昭君·石倉 悟君·小林 元 君·橋詰敏一君(11/22 印高田 RAC 代表公式訪問)

セレモニー

地区より委嘱状伝達

羽深耕時君

(2016-17 年度ロータリー地域協働ネットワークセンター 副センター長)

チャールズ・C・ストラットン君 (2016-17 年度青少年交換委員会 委員)

委員会報告

親睦委員会

12/18 クリスマス家族例会へのお誘い

幹事報告

配布物:週報No.18·19

回覧物:新しいバナーの紹介

報 告:2016年国際年次ソウ

ル大会への参加希望に

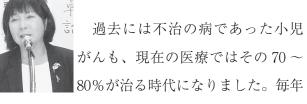
ついて



講話

小児がん経験者への社会的支援について

認定NPO法人ハートリンクワーキングプロジェクト 副理事長 林 三枝 様



約2000人の子供たちが発症し、治療終了後の小児がん経験者は現在全国に10万人以上いると推測されています。

しかしながら成長過程での治療のため、治療の 長期的な影響(晩期合併症)という問題を抱えて いる人が半数以上いるとわかっています。多くの 小児がん経験者は社会で活躍していますが、一部 晩期合併症を持つために就労の機会に恵まれず、 経済的自立に苦労し、社会から孤立してしまう人 たちが今後確実に増加する事が予想されます。 そこで認定 NPO 法人ハートリンクワーキングプロジェクトでは、このような就労の機会に恵まれない小児がん経験者に、働きながら社会に通用する能力・知力・技術等を習得してもらい、将来的には一般企業への就職支援をし、自立した社会生活を営む事ができるように支援していく事を目的としています。

新潟市をモデルケースとし、成功例を確立することでこの職業訓練を兼ねた自立支援事業が全国に広まっていくことを望み、一人でも多くの小児がん経験者が社会から孤立しない事を願い活動しています。



